

令和7年度 学校自己評価（中間報告）

本年度の 重点目標	1 社会的自立に向けて主体的に取り組み、個性や能力を生かしながら多様な人々と協働できる生徒を育てる。 2 従来の指導方針を継承しつつ、社会のニーズも視野に入れたキャリア教育を進める。 3 いじめ・不登校等への支援、作業中の事故や熱中症等への対策を通して、安全で健康的に活動できる環境を整える。 4 教育活動全般を見直し、業務の軽減や適正化・効率化を図る。			
項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価	評価の理由と改善案
生徒の主体性の 伸長（教務部）	自立活動の充実を図る	・自立活動担当者会にて、自立活動の実施方法や内容、目標の設定の仕方などを検討する。	B	・実習日誌との連携を図り、授業改善に取り組み始めたところ。評価においては目標、評価だけでなく、区分や手立てを加えての記入に変更した。
教育課程の見直し、キャリア教育の充実（教務部）	個別の指導計画の適切な目標設定と評価の実施	・各教科会にて、授業改善や目標設定、適切な評価の仕方について検討する。	B	・本校に新しく見えた先生が特に観点別評価の整理があまりできていないように感じる。改善案として、授業改善を目指し前期の成績を教科会で回覧するなど、各教科で評価を振り返る機会を作っていきたい。
教育課程の見直し、キャリア教育の充実（進路指導部）	自らの進路を考え、主体的に進路活動を行えるよう、組織的かつ計画的な進路指導を行う	・自立活動における「自分ノート」を活用し、自分を知ることと関連付けながら、見通しをもち、事前学習や振り返りをしっかり行う。	B	・進路の面談において「自分ノート」を活用することはできたが、担任との情報共有が十分にできなかった。生徒が自らの進路について考える機会を計画的に設定していきたい。
教育課程の見直し、キャリア教育の充実（教育支援部）	校内研究の充実を図る	・新実習日誌の効果的な活用方法や自立活動について、工業科主任や自立活動主任、教科会と連携しながら進めていく。	B	・「校内研究通信」を現在までに2号発行し、全職員での情報の共有に努めている。 ・夏季休業中に自立活動の研修を行い、大変好評であった。今後も継続していきたい。
人権意識の涵養、安全教育の充実（保健体育部）	心身ともに健康的な学校生活の実現	・日々の健康観察から、心や身体の状態を把握し、いじめや不登校などに学級や学年の職員と連携して対応する。 ・特に部活動等でのけがの予防に努め、発生時に、より適切な対応ができるようにする。	A	・学年の先生方と連携し、カウンセラーやソーシャルワーカー事業を活用して生徒や保護者のサポートを行うことができた。 ・部活動等でのけがは昨年度より大幅に減少しており、改善がみられている。このまま続けていきたい。

人権意識の涵養、安全教育の充実 (生徒指導部)	社会ニーズに準じた生徒指導の確立と業務の連携	<ul style="list-style-type: none"> 部活動に対する社会情勢を鑑み、生徒の実態に即した体制等を整えていく。 携わる業務の引継ぎ、見直し連携を確実にを行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 平日の休養日を設定できたが、休日の扱い、行事等に絡む根本的な部活動の考え方を今後も共通理解していく必要がある。 様々な業務を見直すことはできているが、連携が十分とまでは言えないので、今後も対策が必要。
教職員の働き方改革の推進 (総務部)	業務の軽減や適正化・効率化を図る	<ul style="list-style-type: none"> 業務内容の精選と適正化を検討し、見直しや改善を図る。 検討事項を明確化し、会議時間を短縮する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> P T A総会の資料を電子化配信できなかった。来年度に向けて教育支援部と連携していく。 全ての会議で時間に余裕をもって終わり、書面開催を1回行うことで、執務時間の確保ができた。
教職員の働き方改革の推進 (寮務部)	勤務時間の適正化、業務の効率化を目指す	<ul style="list-style-type: none"> 寄宿舎職員の勤務時間が変わったことによる業務の効果を探る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 時間差の勤務も引き継ぎ時間が確保でき共通理解ができるようになった。情報をデータで共有でき印刷の手間がなくなり効率ようになった。
教職員の働き方改革の推進 (部会・運営委員会)	勤務時間の適正化 業務の効率化	<ul style="list-style-type: none"> 欠席連絡や配付物の通知にマチコミアプリを積極的に活用し、電話対応の軽減と、より効率的かつ確実な情報提供を行う。 長時間労働の是正に向けて、月2～3回のノー残業を設定し、全職員が計画的に業務を進められるよう意識付けを行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> マチコミの活用により欠席連絡が定着しつつあり、朝の電話対応が減少。授業参観の案内や給食の献立などを配信することで、保護者に確実に情報を届けられるようになった。 ノー残業デーは全職員が定時退勤し、18時施錠ができつつある。平常日も本来は19時30分施錠だが、19時頃に施錠できる日もある。今後も施錠を早めていくことを目指し、繁忙期は柔軟に対応する。更なる業務の平準化とマチコミ配信対象の拡大により働き方改革を推進していく。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		<ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体性の伸長 教育課程の見直し、キャリア教育の充実 人権意識の涵養、安全教育の充実 教職員の働き方改革の推進 		

※評価基準

A：計画どおりにできた。

C：あまり計画どおりにできなかった。

B：ほぼ計画どおりにできた。

D：計画どおりにできなかった。